



RUNNER



原寸大の卵です！

？
どの動物の卵か
わかりますか？

答えは15ページに



活動の現場……………2

会員さんの寄稿文が
新聞記事になりました……7

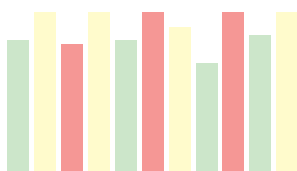
～ On your side ～
相手の立場になって…………8

足輪プロジェクト……………10

2016年度活動報告・
2017年度活動予定(案) ……12

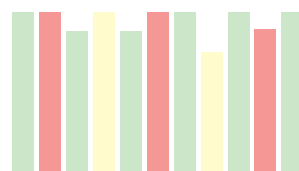
総会・講演会・講習会のお知らせ…15

インフォメーション……………16



活動の現場

このコーナーでは普及啓発活動やイベントなどに参加したボランティアがその体験をもとにレポートしています。



ワールドフェスタ YOKOHAMA 2016の報告

10月8日（土）9日（日）の両日に横浜の山下公園でワールドフェスタYOKOHAMA 2016が開催されました。この催しは日本に在住の外国の人達がお国自慢の食と芸能を披露するものです。野生動物救護の会はこの催しの中で、神奈川県自然環境保全センターから委託を受けた広報活動を展開しました。その内容はイベントを通して猛禽類の持つ役割の周知や保護猛禽類の記録データ分析結果をもとにした、猛禽類の生息実態情報の展示を行うものです。

野生動物救護の会は丹沢大山自然再生委員会の一員として同ブースの中に展示コーナーを設置して広報活動を行いました。8日は10名、9日は7名の会員がスタッフとしての参加し充実した活動となりました。

展示は「猛禽の住める森を」のテーマのもとに、オオタカの剥製、猛禽類の生息実態情報4枚、鳥類の総救護羽数と猛禽類の割合のグラフ、傷病猛禽の写真パネル16枚、「どうして猛禽類を守るの？」の説明パネル1枚、野生動物の保護原因とその解決策2枚、チョウゲンボウの羽根標本で行いました。また保護猛禽類に関するリーフレットを配布し、猛禽類や森を守る意味の定着を図りました。来場者がオオタカの剥製を見て興味を示し話が弾みました。そして他の展示内容にも興味を示して見入ったり説明を熱心に聞いたりする方がたくさんありました。「神奈川県にたくさんの種類の猛禽が住んでいるのを知らなかった」とか「森や猛禽類が大切なことが分かった」などの声が聞かれました。

両日とも午前中は雨となり来場者が少なかったのですが、午後には雨が上がり薄日が差してくると来場者がどっと増えて混雑し、展示の見学の呼びかけや展示の説明をする人も熱が入っていたようです。2日目は途中でリーフレットが品切れとなるほどでした。



雨の中でも絶賛開催中です！



たくさんの方が展示を見てくれました



ブース内の様子

平成28年度 野生動物救護ボランティア修了式の報告

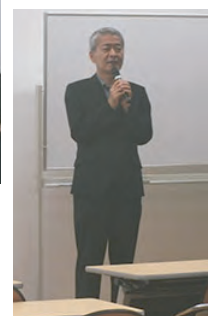
9月25日（日）13：00～13：30 神奈川県自然環境保全センターのレクチャールームにて平成28年度野生動物救護ボランティア修了式が行われました。今年度は42名修了し、25名の方が当日、公益社団法人神奈川県獣医師会 北澤浩一副会長より受け取りました。



修了式の様子

**皆様、おめでとうございます。
野生動物救護ボランティアはこれからが始まりです。
皆様のご活躍に期待しています！！**

野生動物救護の会



北澤先生

今回はボランティア講習会の修了式の後に赤木智香子先生をお招きして「日本における野生動物救護の現状とボランティア活動の実際」というお話を伺うこととなりました。赤木先生は大阪府立大学農学部獣医学科卒で、米国ミネソタ大学で修士号を取得、猛禽類の消化器生理学を研究しその後ミネソタ大学猛禽センターで研修医として勤務、環境教育にも関心を持たれました。先生のテンポの良い話し方で始まり、まず野生動物救護の現状を見るには山に登ってみようという話から始まりました。高いところから救護とその周辺を見てみるといういろいろなことが分かっていくということです。日本の野生動物救護は行政の5年ごとの見直しがあり鳥獣保護管理法、種の保存法等の見直し、これには救護事業も含まれるということです。



赤木先生

傷病個体の救護は生物多様性が軸になっている。生物多様性とは？との話では生態系の多様性、種間の多様性、種内の多様性などがあり、またそれらからサービスを受けているというお話があり、水や食料、気候、精神的充足、酸素形成など人類の生活に密着していることばかりです。生物多様性は生態系のバロメーターでもあり、現在それらが危機に接しているというお話です。危機とは第1に開発などによる種の減少絶滅、第2に里山等により手入れ不足、第3に人間により持ち込まれたものによる危機、第4に地球環境の変化による危機などの話がありました。

生物多様性保全の方策には190か国とEUが締約している。日本では35都市、14政令指定都市で策定済みです。神奈川県もH28年3月に策定。神奈川県では里地里山の保全、野生動物の管理、人と野生動物の棲み分けを掲げています。野生動物を取り巻く状況としては絶滅危惧種が多く、人間との棲み分けが崩れてきている、増えすぎた結果、管理が必要になってきた（シカ、イノシシなどがあげられる）。又最近エキゾチックアニマルの増加や外来動物の輸入などで野生動物をペットのように感じてしまう（餌付け問題などを引き起こす）。救護の果たしてきた役割として、傷病動物の受け皿を作る、救護データの蓄積と活用、鳥獣保護思想の普及啓発と環境教育など。市民ボランティアの救護へのかかわりとしては里親制度（傷病鳥獣を放野まで預かる、放野できない個体を終生預かる、保護センター等へ通って傷病動物の世話をする、環境教育に携わる、民間の救護施設を作る、リハビリをする）などの話が続きしました。

救護の利点としては、傷病野生動物の受け入れ場所の提供、救護された動物は救命、放野ができる、得られる経験を希少種に活用できる、学生に訓練機会を提供できる。欠点としては、救護には費用が掛かりすぎる。救護個体のほとんどが一般種である。客観的に関わるのが難しくなる。感染のリスクがある。資金不足で他の保護団体と資金の取り合いなど。又救護の抱える問題としては責任の所在が明確でない、開業医の負担が大、公的な資金不足、共生の専門官の不在、データの活用の不十分、希少種の安楽死が認められていない。感染対策の不十分、知識技術の不足、市民が預かることによる感染症の懸念や観念的ペット化などです。又愛護と保護の混同についての話では、愛護は1頭1羽の命を守ろうとする。保護は個体群に注目して種の保存を守る。愛護という言葉はペットに使う、野生動物には保護という言葉を使うという話もされました。

安楽死のマニュアルは必要という話が出ました。ペットは病気をしても手元で一生看病してもよいが、野生動物はケガをしながら狭いケージに閉じ込めて一生飼って良いものではなく、それらのエサ代をこれから放野等できる個体に使ったほうが良いのでは。この話については行政という中だけでやっているとなかなか難しいものがあるのではというお話です。

後は海外の救護現場からは赤木先生のいらしたミネソタ大学猛禽センターでのお話がありました。海外では企業などから億単位の寄付があるとのこと。ミネソタ大学では年間予算が1億4千万で予算6割が寄付とのこと。日本の現状では無理な話かなと思います。またそこにいるスタッフやボランティアにもしっかり訓練が必要なライセンスを持っている。その他のボランティア活動としては普及啓発運動や、傷病動物の輸送、イベントの手伝いなど保全センターでも行っていることと重なりことも多々ありました。これからも山に登って考えようと、アンテナを張って知識情報を取り込み広い視野で考えて行動していく必要性を話されて本日の講義は終わりにになりました。

動物フェスティバル神奈川2016 in あやせの報告

10月23日（日）に綾瀬市オーエンス文化会館にて、動物フェスティバル神奈川2016 in あやせが開催されました。救護の会は、エデュケーションバードのコミズクのロン君、チョウゲンボウのけいすけ君と共に参加し、猛禽類の住める森をテーマとした展示と私たちの暮らしの中で傷つく野生動物の現状をテーマとしたパネル展示を行いました。ロン君が綾瀬市で保護されたこともあり、多くの来場者の方からと関心を持っていただけたようです。他にも犬猫の譲渡会、長寿犬・猫の表彰や保護犬たちのミュージカル、介助犬のデモンストレーション、牛乳、卵の配布などもあり多くの方でにぎ

わいました。子供から大人まで沢山の方が救護の会のブースにも立ち寄ってくれました。
この現状を理解することで、来場者の皆さん一人ひとりが改めて自分の生活をみなおしてくれたい
いなと思っています。



けいすけ君



人、人、人



第37回 秦野市民まっりの報告

第37回 秦野市民まつり、毎年11月3日に開催。
今年のテーマは「お宝いっぱい 夢いっぱい」、「がんばろう！
日本 負けるな 東北！ 負けるな九州！」
楽しいイベントが盛りだくさん。

今年も参加して来ました～当会のテーマは『猛禽の住める
森を』&『傷つく野生 動物たち』
お祭りは10時開始なのに、9時を過ぎたあたりから、すで
に大勢の人・人・人。準備が間に合わないよーと、焦りつつ
も、準備しながら普及活動開始。エディケーションボードの
チョウゲンボウ（けいすけ）やコミミズク（ロン）1日がん
ばってくれました。この2羽の猛禽たちが、伝える野生動物
の現状は、見る人にリアルに訴えていると思います。

スタッフも頑張りました。ブースの前の機械がうるさかつ
たけど、声を張って、野生動物たちの傷つく原因 などを説
明しました。人間のちょっとした気づかいで、事故を防げる
事を理解してもらえたと思います。みなさんのあたたかい心
が募金箱に反映。 みなさま～ありがとうございます！

今年、参加できなかった方々、来年こそはぜひ参加して
みて下さい。スタッフでも、のぞきに來ただけでも一お待ちし
ております。



コミミズクの
ロン君



チョウゲンボウの
けいすけ君



たくさんの方が来てくれました



展示パネル

2016年 大掃除の報告

12月3日（土）に自然環境保全センターの大掃除が行われました。毎年恒例のこの大掃除、今年
はお天気もよく掃除日和で、多くのボランティアの皆さんが参加しました。

傷病舎や治療室、外の小屋からボランティア室、外の落ち葉の片づけと広範囲ながら普段なかなか
手が回らない細かな部分まで手分けをして掃除しました。みなさんの力ですっきりと片付き、動物た
ちも気持ちよく新年を迎えられるようになりました。掃除のあとは豚汁大会です。今年は豚汁に加え、
リクエストのあったモツ煮も加わりパワーアップ！職員さんやボランティアのみなさんから食材の差
し入れもあり、とっても美味しい豚汁とモツ煮でした。また他の料理や飲み物、果物、お菓子などの
差し入れもあり、とても豪華なランチタイムでした。どれもこれも美味しくてあっという間になくなり
ました。今回は、食事を楽しみながら簡単に自己紹介もしました。小学生のお子さんから、大先輩
の方までさまざまな年齢の方の参加があり、ボランティアならではの楽しい交流となりました。今年
参加できなかった方は是非来年、一緒に掃除して美味しい豚汁&モツ煮と一緒に食べましょう！



朝礼



親子で掃除中



外の落ち葉も



お昼はもちろん豚汁です！

相川小学校 野生動物を守る（いきものとなかよし）の報告

日時 12月19日（月）10:45～12:10 **場所** 厚木市立相川小学校 多目的ホール

対象 2年生 37名

参加者 野生動物救護の会から5名

ねらい 野生動物の命を守る活動をしている人たちの話を聞いて、人と野生動物の関わり方を知り、生き物の命を大切にすることを養う

- ◆ **主な内容**
- ・身近に住む野生動物を知る（パワポ）
 - ・野生動物たちの住んでいる場所を考える
 - ・動物のけがの原因を想定し、その場面を簡単な寸劇で体験する
 - ・野生動物の交通事故の理解を深める（紙芝居）
 - ・野生動物のけがの原因を自分で考えたりイラストから見つけたりする
 - ・傷ついた野生動物の様子を知る（パワポ）
 - ◆ 野生動物を守るためにできることを考える



ウィズリーくん

- ◆ **感想**
- ・12月中頃なのに最高気温が15度くらいあり、部屋の中でも暖房なしで寒くなかった
 - ・低学年の2年生なので、どのような内容にするか難しかった
 - ・児童全員が体を動かして参加できるようにしたのが良かった
 - ・盛りだくさんの内容だったが、だいたい時間配分通りにできた
 - ・考えを発表する児童が多く積極的に参加できていた
 - ◆ 鳥インフルエンザの関係でエデュケーションアニマルとのふれあいができなくて残念だった
 - ・パワポ使用には、ホールが明るくて映像がぼやけてしまったのが残念だった

報告はブログでも紹介してます よかったら見て下さい！



アオサギチーム



たぬきチーム



ヒヨドリチーム

「冬の探鳥会」の報告

2月25日（土）に冬の探鳥会を行いました。この日は風もなく気温も高めの穏やかな晴天でした。午前9時に相模原市磯部の三段の滝下広場に集合したのは10名。簡単な説明や挨拶の後、早速観察に入りました。相模川の磯部取水堰の場所には例年ならたくさんのカモ類が見られるのですが、今年はどうした訳かほとんどカモの姿は見られません。そこでまず三段の滝周辺の河川敷で野原の野鳥を観察し、その後に予備として考えていた相模原沈澱池に移動してカモ類を見ることにしました。

河川敷ではアオジ、シメ、ツグミ、ジョウビタキなどがあられ、参加者は双眼鏡でその姿を確

認していました。また上空でミサゴが飛び回り、その姿を大きく見る事ができました。さらに河川敷での観察を終ろうとしていたところ、目の前をキジのオスが飛びながら横切っていました。沈澱池ではカモの数は少なかったのですが7種の姿を確認できました。オシドリを初めて見た方もおられ喜んでいました。

沈澱池の前で鳥合わせを行い、12時頃に解散をしました。この探鳥会でたくさんの野鳥が観察できて皆さん満足して帰られたと思います。

◆観察できた37種◆

オカヨシガモ、オシドリ、オナガガモ、キンクロハジロ、コガモ、マガモ、カルガモ、ヨシガモ、アオサギ、イソシギ、オオバン、カイツブリ、カワウ、カワセミ、カンムリカイツブリ、ダイサギ、アオジ、エナガ、オオタカ、カワラヒワ、キジ、キジバト、シジュウカラ、シメ、ジョウビタキ、スズメ、セグロセキレイ、ツグミ、トビ、ハクセキレイ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、ヒヨドリ、ミサゴ、ムクドリ、メジロ、モズ

◆鳴き声だけ確認できた4種◆

コジュケイ、コゲラ、シロハラ、ホオジロ

春休み体験教室の報告

3月25日（土）、小学生を対象とした「わくわく野鳥探検隊」が開催されました。参加者は子ども7名、保護者が5名です。

【野鳥観察】

午前中は春の谷戸の自然観察です。鳥が見つかりと双眼鏡をさっと構える子、高倍率のスコープで鳥の姿を見せてもらう子、様々ですが「本当だ！」「見えた！」との感激の声があがりました。コサギは口ばしの色と足の指の色を見分けて判断する、などの説明に熱心に聞き入っていました。鳥以外にもシカの足跡などのフィールドサイン、土筆の生えている所など気付く事が多かったです。

この日観察した鳥は24種で、終了後はテキストに鳥の名前を一生懸命書き込んでいました。

【動物とのふれあい】

エデュケーショナルアニマルはタヌキの「ハヤ太」くん。交通事故で後ろ足を悪くしたけれど、前足だけで寄ってこること、どんなご飯を食べているかなど詳しく話を伺いました。一人一人に撫でさせてもらいましたが「柔らかい」などの感想が聞かれました。

【救護動物の話】

どのようにして野生動物が傷つくのか、また親鳥との鳴き交わしているひなの動画で誘拐についての説明があったりして、子ども達の学びも深まったと思います。タヌキが放野後に勢い良く走る場面に思わず声があがり笑顔が見られました。

【小鳥の巣箱づくり】

トンカントンカンと夢中になっているうちに1時間が過ぎ、それぞれ立派な巣箱が出来あがりました。思い思いの絵を描き、完成品を持って記念撮影。この日のアンケートでは、今後もっと野生動物とふれあいたいと書いた子どももありました。子ども達、親御さん、主催共催者にとって心に残る春の1日となりました。体験教室は夏休みにもあります。興味を持った方、是非お手伝いに参加してみませんか。また、お知り合いのお子さんにも紹介し声を掛けてみましょう。



探検中



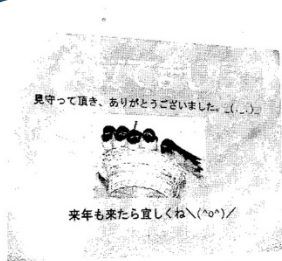
巣箱作成中



会員さんの寄稿文が新聞記事になりました

「帰ってきた“つばら”と小さな小さな“ピッコロ”のお話し」と題し、自然環境保全センターのボランティアとしてご自宅で長期飼養している自然復帰不可能なツバメの事などを RUNNER26 号に寄稿していただいた会員の沢田伸子さん。その記事が朝日新聞記者の方の目に留まり、新聞記事として取り上げられました。元になった沢田さんの原稿はこちらから見るができます。是非ご覧ください。→

http://www.kanagawa-choju.sakura.ne.jp/siryou/runner_vol26.pdf



見守り感謝

ツバメたちの巣があることを知らせる
ポスター＝横浜市緑区のJR中山駅前



県自然環境保全センター（厚木市七沢）には、毎年500を超えるけがをした野生動物が運び込まれる。治療し、野生にかえす活動をしている職員4人を支えているのは、約250人のボランティアだ。

けがした野鳥 守るのは私

厚木の施設 ボランティア250人

引き取って生活を共に



つばらを手で包む沢田伸子さん（左）と茂友さん夫妻＝横浜市緑区

「元氣になりますように」。鳥かごにかけた新聞紙を折るような気持ちでそとめくったが、ピッコロと名付けたツバメのヒナは冷たく、動かなかった。翌日、野生動物保護のボランティア活動をしている横浜市緑区の沢田伸子さん（56）がピッコロと出会ったのは8月上旬。自宅最寄りのJR

り絞って『ありがとう』と言ってくれたのだと思う。沢田さんがボランティア活動を始めたきっかけは、6年前、自宅の庭でツバメのヒナを見つけたことだ。両肩の骨が折れていた。砂糖水を与えようとたくさん飲み、ペットショップで買った餌もほとんど食べなくなった。まん丸の目がかわいく、つばらとを付けた。巣から落ちたりけがをしたたりした野鳥を見つけた場合、親鳥がヒナを探していたり実際にけがをしているなら、手を出さないほうがいいこともあるという。沢田さんは環境保全センターに相談してつばらを運んだ後も、その姿が忘れられなかった。

つばらはけがの影響で飛べないが、元氣に沢田さんの家で暮らしている。沢田さんとつばらは毎日、庭にあるピッコロの墓に「今度生まれきたら飛べるといいね」と話しかける。今年、ツバメたちは中山駅前のバス停留所そばに巣を作った。「ふんが原因でトラブルにならないか」。夫の茂友さん（67）と駅前の交番に相談。お巡りさんはJRや駅ビル関係者など方々に電話をかけてくれた。数週間後、駅ビル関係者が巣のそばに「ツバメ子育て中」と書いたポスターを設置。現在は文芸が「巣立てました。来年も来たら宜しくね」に変わっている。「ツバメがいる風景を楽しんでくれる人の姿もある。この風景がずっと続くといい」と沢田さん夫妻は願っている。

（須田世紀）

2016年10月7日朝日新聞より

ランナーでは皆様からの原稿を募集しています。野生動物に関することならどんなことでもOKです！原稿に関する事は事務局までご連絡下さい。皆様からのステキな原稿お待ちしております。

つづいてます



～ On your side ～

相手の立場になって



ボランティア歴12年目の伊熊さんがボランティア活動をしなが
日々思うことを文章にしてみました。

野菜も泣いている 恥知らずな盗人

このセンターの周辺には地物野菜を無人で
おいてある所が何カ所もあり、見た目はブチ
ャイクでも新鮮で安くて美味しい。

横浜からこっちに来た時には作業の合間に
買い出しに行く事もしばしば。友人が渋谷で
レストランをやっているので野菜の買い付け
を頼まれる時には後部座席に目一杯積んで届
けたりしている。すると店のスタッフたちが
安さと新鮮さに驚くのだ。東京で仕入れると
2、3倍以上の仕入値になる物もあると言う
からびっくり！飲食店はほぼどこでもスタッ
フに賄いを出すらしく、その費用は結構バカ
にならないそうである。そこで大分前の話。

朝センターに行く前に毎回立ち寄っていた
お宅があった。広い敷地の入り口に野菜を並
べた棚があり、備え付けの空き缶にお金を入
れて持って行くという典型的な無人販売形式
をとっていた。

野菜が無い時には“おはようございます！
ごめん下さ～い！”と大声で叫んでその家
のご主人を呼んだものだ。だがある日から野菜
が消えた。収穫をお止めになったのか、旬の
物が無いだけなのかと思っていたが…それが
1ヶ月以上続いた頃たまたま庭に出ていらし
たご主人を見かけたので、もう野菜を作っ
ていないのかたずねた所、何と並べた野菜の6
～7割が盗って行かれてしまうので置くのを
やめたのだというではないか。

確かに…行き始めた頃は棚に剥き出しで置
いてあり、次はカバーが掛けられ、そのうち
監視カメラが設置され、次には棚に置かなく
なり最後は棚が無くなった。…この状況に強
い憤りを感じ血が逆流するかと思った。

さらにセンターに向かって行くとやはり庭
先に無人販売をして下さっている家があるの
だが、棚の下にある段ボールに“ヌスマナイ
デクダサイ”と書いてあるではないか。

そろそろ筍の季節、そのお宅の前を通るとかなり腰が曲がった高齢の女性がたった今掘って来た新鮮そのものの筍をリヤカーに乗せて一生懸命運び、棚に並べている姿を幾度となく見かけた。それを思い出してやりきれない気持ちで一杯になった。

私の家は横浜だが、あちらこちらに無人販売をしている場所がある。その中のひとつで、“お金を入れずに野菜を持って行く人があまりにも多いので少なく置いてあります。もっと欲しい方はあちらの建物にいますので声を掛けて下さ…無人販売はタダではないのだ。お金を入れないのは万引きと同じで犯罪である。

ある日、野菜を置かなくなったその家の、まだ買えた頃の話である。買った野菜を車の中で整理していると60才位の男性だろうか、キョロキョロしながらひとつの野菜を取り上げて空き缶の中にお金を入れる仕草をした。その時私は窓を開けていたので直ぐにわかった。盗んだなと。缶にお金が落ちる音がしなかったのである。入れずに持ち去ったなと確信した。

ネットで“世界が思う日本の素晴らしい所”というサイトがあるが、その中に“無人販売している所でちゃんとお金を入れて行く日本人“というのがあった。

それなのに……真夏の猛暑の時も冬の凍れる時も大切に育てた野菜を収穫し泥を落としてキレイに包装するのがどれだけ労力を必要とし大変な作業か、そしてそれを安く無人販売するという、人を信じる純粋な心と親切な行為を裏切り盗みをするという恥知らずな人間を私は絶対に許せない。こういうクズの様な奴らを心から反省させるにはどうすればいいものか。

センター周辺の美しい自然が存在する場所に汚い物があるとしたらそんな人間の行為なのではないかと思う。

大自然とまで行かなくとも素晴らしい景色があるこの地域で人として最低の事をする人間たちに懺悔させるにはどうすれば良いか、いくら考えても100点満点の答えが浮かばない！

動物たちのためだけではない、信じるという尊い心を決して裏切ってはいけない。

On your side 相手の立場になって



足環Project!!

足環プロジェクトとは

足環を付けた放鳥個体が野外で発見もしくは再捕獲等されることで
その個体の生存年数、移動範囲・距離などを知る為の活動です。

詳しくは「RUNNER」vol.16 を御覧下さい。

～足環を付けて放された鳥たち～

2016 年 8 月～10 月

足環番号	種類	放鳥月	放鳥場所
H9	トビ	2016 年 8 月 10 日	平塚市
H8	ササゴイ	2016 年 8 月 13 日	厚木市スポーツ広場
I1	アオバズク	2016 年 8 月 31 日	大磯町国府新宿
I2	カルガモ	2016 年 9 月 18 日	小田原市中曽根
I0	ダイサギ	2016 年 9 月 18 日	小田原市中曽根
I4	ダイサギ	2016 年 9 月 27 日	平塚市土屋
I3	トビ	2016 年 9 月 27 日	平塚市土屋
I5	カルガモ	2016 年 9 月 27 日	厚木市玉川
I6	カルガモ	2016 年 9 月 27 日	厚木市玉川



I1 アオバズク



I5 カルガモ



I5 I6 カルガモ

(写真提供:神奈川県自然環境保全センター)

2016 年 11 月～2017 年 3 月

足環番号	種類	放鳥月	放鳥場所
J0	オオタカ	2016 年 11 月 13 日	厚木市七沢
I9	スズガモ	2016 年 11 月 14 日	小田原市寿町
I7	アオサギ	2016 年 11 月 14 日	小田原市寿町
J1	ゴイサギ	2016 年 11 月 28 日	松田町神山
J2	コミミズク	2016 年 12 月 5 日	厚木市関口
J3	マガモ	2016 年 12 月 5 日	厚木市関口
J4	マガモ	2016 年 12 月 12 日	厚木市関口
J5	カルガモ	2016 年 12 月 12 日	厚木市関口
J6	スズガモ	2016 年 12 月 12 日	厚木市関口
J8	セグロカモメ	2017 年 1 月 30 日	平塚市久領堤
J7	マガモ	2017 年 2 月 10 日	厚木市小野
K0	チョウゲンボウ	2017 年 2 月 24 日	寒川町田端
K1	オオコノハズク	2017 年 3 月 8 日	愛川町
*1	フクロウ	2017 年 3 月 15 日	秦野市



J2 コミミズク



J4 マガモ



J8 セグロカモメ

(写真提供:神奈川県自然環境保全センター)

こんな足環をつけた野鳥を見かけたら下記まで連絡してください。



* 読み方は上から「A0」と読みます。

NPO 法人 野生動物救護の会

Tel : 0463-75-1830 e-mail : wildrelief@kanagawa-choju.sakura.ne.jp

または

神奈川県自然環境保全センター 自然保護課 Tel : 046-248-6682

鳥の詳しい情報はこちらに載せています。
(放野の光景を動画で見ることができます)

ブログ URL : <http://blog.goo.ne.jp/yaseidobutsu-kyugo>



-2016 年度活動報告・2017 年度活動予定(案)-

2017 年も早 4 月となり、新年度の活動がスタートしました。野生動物救護の会の会員の皆様には日頃から会の活動にご協力いただきありがとうございます。お陰様で昨年度は充実した事業展開ができたと思います。5 月に予定されている総会では、昨年度の総括や今年度の事業内容について活発に論議していただきたく、ここに前年度の活動報告と今年度の活動予定を提案します。ご検討をお願い致します。

昨年度も自然環境保全センターからの委託事業がありました。通常の活動に加えての委託事業で、特に 20 件の保護猛禽類の保護場所現地調査や報告書の作成などに時間と労力を要しました。皆様のご協力のもと、通常の活動も委託事業も無事遂行できました。

今年度は、野生動物救護の会結成から 10 年目となります。そこで 10 周年記念事業を無理のない程度で実施したいと計画しています。記念講演会や 10 年間の活動記録や記念品の作成などです。会員の皆様が参加しやすいように総会や記念講演会の会場を本厚木駅近くにしました。多数の方の出席をお願いします。

最近なかなか野生動物救護の会の活動に参加できないため退会を考えているという話を聞きます。でも、理事長や理事、スタッフ及び活動できる会員の方が救護の会を代表して活動していきます。実際に活動に参加できなくても会員であることが野生動物救護を支えることとなります。無理のない程度で参加をよろしくお願いします。

2016 年度 NPO 法人野生動物救護の会 活動報告

1. 傷病鳥獣救護の直接的活動

傷病鳥獣の救護ボランティアの推奨	通年	自然環境保全センター
M プロジェクト（猛禽類のリハビリ）	通年	プロジェクト参加者自宅

2. 救護ボランティアを養成する活動

野生動物救護ボランティア講習会	6/4 6/5	自然環境保全センター
野生動物救護ボランティア講習会修了式	9/25	自然環境保全センター

3. 主に会員を対象とした啓発活動

探鳥会	2/25	三段の滝、相模原沈澱池
ハイキング兼探鳥会	4/9	石砂山
講演会「日本における野生動物救護の現状とボランティア活動について」赤木先生	9/25	自然環境保全センター
羽根標本等の標本作成	7/2 など	自然環境保全センター

4. 主に市民を対象とした啓発活動

各種イベントへの参加		
動物フェスティバル	10/23	綾瀬市文化会館
秦野市民まつり	11/3	秦野市民公園
環境教育 厚木市立相川小環境教育	12/19	厚木市立相川小学校
夏休み子ども体験教室（野生動物を学ぶ）	7/30	自然環境保全センター
春休み子ども体験教室（わくわく野鳥探検隊）	3/25	自然環境保全センター
足環プロジェクトに関する企画展示	3 月～5/8	自然環境保全センター

5. 情報発信的活動

会報誌RUNNERの発行	VOL25	4月	厚木市総合福祉センター
	VOL26	9月	厚木市総合福祉センター
ホームページの運営 会員への情報発信		通年	野生動物救護の会事務局

6. 調査・観察的な活動

秦野市立図書館衝突調査	4/22, 5/27、6/24、7/29、8/26、9/30、10/28、 11/25、12/23、2/24、3/31、		秦野市立図書館
樹洞性哺乳類・鳥類調査	4/19、5/24、6/23、7/15 など		自然環境保全センター
足環プロジェクト	通年		自然環境保全センター

7. 関係団体との協働的活動

丹沢大山ボランティアネットワーク総会	4/9		自然環境保全センター
「七沢里山サミット」参加	7/11		七沢希望の丘小学校
傷病鳥獣保護連絡協議会	11/29		横浜 波止場会館

8. 運営的活動

NPO法人 野生動物救護の会定期総会	5/29		自然環境保全センター
NPO法人 野生動物救護の会 懇親会	5/29		県立七沢森林公園
救護の会の事務的管理（名簿・会費・物品など）	通年		野生動物救護の会事務局
野生動物救護の会の理事会・スタッフ会議	随時		自然環境保全センター
傷病舎大掃除及び豚汁大会	12/3		自然環境保全センター

9. 自然環境保全センターからの委託事業

イベントでの広報活動（ワールドフェスタ横浜）	10/8 10/9		横浜 山下公園
保護猛禽類の生息実態調査			
プロジェクト打ち合わせ	9/22		自然環境保全センター
保護場所の現地調査20件	9月～2月		現地各所
報告書 まとめと提出	3月		自然環境保全センター

2017 年度 NPO 法人野生動物救護の会 活動予定(案)

1. 傷病鳥獣救護の直接的活動

傷病鳥獣の救護ボランティアの推奨	通年	自然環境保全センター
Mプロジェクト（猛禽類のリハビリ）	通年	プロジェクト参加者自宅

2. 救護ボランティアを養成する活動

野生動物救護ボランティア講習会	年 2 回	自然環境保全センター
野生動物救護ボランティア講習会修了式	年 1 回	自然環境保全センター

3. 主に会員を対象とした啓発活動

探鳥会	12/23 1/27	近隣各所
講演会	1～2 回	自然環境保全センター
羽根標本等の標本作成	年数回	自然環境保全センター

4. 主に市民を対象とした啓発活動

各種イベントへの参加 (動物フェスティバル、秦野市民まつり、その他)	各期日	各イベント会場
各種要請による講演	随時	各会場
環境教育 学校からの要請による環境教育	随時	各学校等
夏休み子ども体験教室（野生動物を学ぶ）	7/29	自然環境保全センター
春休み子ども体験教室（わくわく野鳥探検隊）	3/31	自然環境保全センター

5. 情報発信の活動

会報誌RUNNERの発行	年数回	厚木市総合福祉センター
ホームページの運営 会員への情報発信	通年	野生動物救護の会事務局

6. 調査・観察的な活動

秦野市立図書館衝突調査	月 1 回程度	秦野市立図書館
樹洞性哺乳類・鳥類調査	通年	自然環境保全センター
足環プロジェクト	通年	自然環境保全センター

7. 関係団体との協働的活動

丹沢大山ボランティアネットワーク総会	4 月	自然環境保全センター
傷病鳥獣保護連絡協議会	未定	未定

8. 運営的活動

NPO法人 野生動物救護の会定期総会	5/20	厚木市総合福祉センター
救護の会の事務的管理（名簿・会費・物品など）	通年	野生動物救護の会事務局
野生動物救護の会の理事会・スタッフ会議	随時	自然環境保全センター
傷病舎大掃除及び豚汁大会	12/9 又は 12/10	自然環境保全センター

9. 10 周年記念事業(予定)

バード週間に誤認保護関連チラシ配布	5 月	場所未定
10 年間の活動記録（RUNNERでの特集）	9 月	厚木市総合福祉センター
10 周年記念品作成（手ぬぐい）	5/20	記念講演会にて配布
10 周年記念講演会	5/20	厚木総合福祉センター
10 周年記念絵本製作	通年	完成未定

～第10回 野生動物救護の会 定期総会～
～& 記念講演会 開催～

お陰様で、2007年に設立したNPO法人 野生動物救護の会の活動は、この4月から10年目に入りました。長年にわたり救護の会の活動をご支援いただき、誠にありがとうございます。つきましては、**5月20日(土)13時20分より第10回定期総会を厚木市総合福祉センター4階ボランティアセンター研修室(バスセンターのすぐ隣)にて開催します。**会員の皆様にはぜひご参加いただき、活動に対するご意見などをいただきたいと思います。

また、総会の後 **14 時 20 分**より、プロカメラマンである**佐藤信敏氏**(弊社副理事長)による**記念講演会「写真から読み解くツバメの現状(福島ツバメ調査の報告)」**を行います。佐藤氏は、2011 年に発生した東日本大震災以降 福島県に飛来するツバメの調査を行っており、その結果は昨年の NHK BS1 スペシャル「原発事故 5 年目の記録」でも放映されました。今回は、その調査について興味深いお話をたっぷり聞けることと思いますので、この機会にぜひご参加ください。

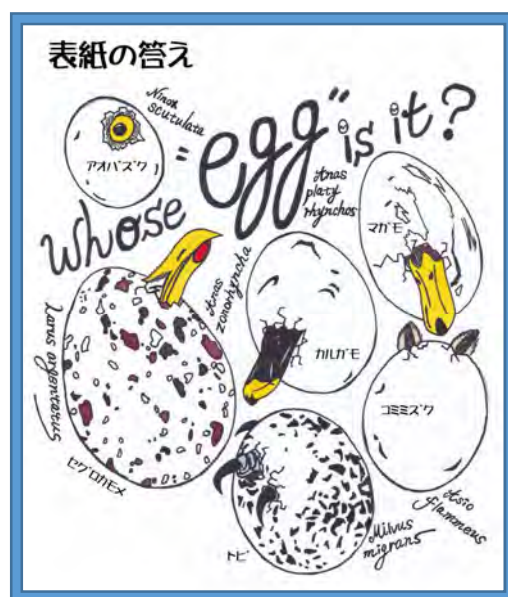
～平成 29 年度～
～野生動物救護ボランティア講習会開催～



野生動物救護ボランティアとは
傷ついた野生動物を救護して野
生に帰すボランティアです。
ボランティア登録をして、一緒に
活動しませんか？

日時:
6月3日(土)または4日(日)
午前9時～午後4時30分

開催場所・申込先:
神奈川県自然環境保全センター
自然保護課



インフォメーション

イベント

◆第10回 NPO 法人 野生動物救護の会 定期総会

▽日時:5月20日(土) 13:20～受付 13:40～総会

▽場所:厚木市総合福祉センター 4階 ボランティアセンター研修室

◆10周年記念講演会

「写真から読み解くツバメの現状(福島ツバメ調査の報告)」

▽日時:5月20日(土) 14:20～受付 14:30～16:30 講演会

▽場所:厚木市総合福祉センター 4階 ボランティアセンター研修室

(総会に引き続き同じ場所で開催)

▽講師:佐藤信敏氏(野生動物救護の会 副理事長)

◆神奈川県 野生動物救護ボランティア講習会

▽日時:6月3日(土) または 4日(日)

▽場所:自然環境保全センター レクチャールーム

☆毎年恒例!今年も新たに野生動物救護ボランティアさんを募集し、野生動物救護に関する知識を学んでいただきます。1日の講習会を2回行い、どちらかに参加してもらいます。

裏方ボランティアスタッフも募集中です!

◆夏休み子ども体験教室

▽日時:7月29日(土) ▽場所:自然環境保全センター

☆小学生高学年の子どもたちに野生動物について学んでもらう体験教室を開催します。

衝突調査

◆秦野市立図書館衝突調査

▽日時 毎月最終金曜日 →今後の調査日は5月26日、6月30日、7月28日、8月25日

▽場所 秦野市立図書館

☆野生動物救護の会「バードストライク研究会」では窓ガラスへの野鳥の衝突調査と一緒に
行ってくれる方を随時募集しています。興味のある方は事務局までご連絡を!

“救護の会 ブログ” 始まっています!

◆野生動物救護の会の活動の様子を楽しくご紹介!

日常のボランティア活動や、猛禽類の訓練風景(M project)、各種イベントのお知らせや報告などなど、随時更新しています。救護の会 HP トップページ

「救護の会ブログ始めました!」のバナーをクリックしてご覧下さい♪

アドレスはコチラ→ <http://kanagawa-choju.sakura.ne.jp/index.html>



* 詳細は当会ホームページをご覧ください *

☆☆会員へのお誘い☆☆

当会は、ボランティアスタッフの協力と設営趣旨にご賛同いただきました
皆様方の寄付によって運営されております。

私たちの活動を支えてくださる賛助会員も同時に募集しています。

★一般会員:どなたでもご参加いただけます(年会費 2,000 円)

★学生会員:学生の方(年会費 1,000 円)

★賛助会員:当会の活動にご賛同いただき寄付をしていただいた方

年会費:法人一口 5,000 円 個人一口 3,000 円 一口以上

【振込先】

ゆうちょ銀行振替口座 : 00270-0-47040

名義 : 特定非営利活動法人 野生動物救護の会

発行月:2017年4月 発行:特定非営利活動法人 野生動物救護の会 電話:0463-75-1830

〒259-1306 神奈川県秦野市戸川 1086 番地の4 ホームページ:<http://kanagawa-choju.sakura.ne.jp/>

編集者 表紙:小林夏子(平沼亜矢子) 活動の現場:平沼亜矢子 会員さんの寄稿文が新聞記事になりました:神崎さつき ~on your side~相手の立場になって:伊熊智子(平沼亜矢子)

足環 Project!!:渡辺優子 2016年度活動報告・2017年度活動予定(案):佐藤幸太郎

総会・講演会・講習会のお知らせ:神崎さつき インフォメーション:神崎さつき